
願いの願い

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
願いの願い

【Nコード】
N4742Z

【作者名】
妖精

【あらすじ】
たった一回だけ使える願いの力その力の存在を知らない主人公そんな彼らが家族を守るためにがんばる

第1話 始まり

それは……ある日……

突然だった……

シリシリシリシリシリシリシリ

ガシヤン.....

勢いよく机にある時計を何か棒的なもので粉碎する

「まったく、騒がしい……」

そう言いながらも頭をかいて起き上がる寝ぼけているせいかなフラフラしながら机の引き出しのなかの鍵が何十にもしてある箱を出す

「はあり、開けたくねえなあ……めんどくさいし……」

そう言いながらも渋々あけている……………カチャカチャ……………カ

チャ…………ガチャツ！

開いた……そこには一つの携帯電話があったその画面には

“着信七百二件、メル九百八十八件”

常に携帯の赤ランプがつきっぱなし電池切れはなく少しの光でさえも充電出来るのだから本人は嫌がっている何故ならば

宛先：清水 夏南、件名どこにいるの？”

カチツ

宛先：清水 夏南、件名あなたの居場所を教えてください”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名どこにいるの？”

カチツ

“宛先：清水 夏南、件名早くあなたにあいたい”

カチツ

“宛先：清水　夏南、件名会いたい会いたい会いたい会いたい会いた

会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
たい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
ピッ……………

「いつにかつたらこのうざったいメールが止まるんだ!」

毎日毎日一分おきにくるこの迷惑メール、しかもメアド(メールアドレス)を変えても次の日にはまたくるし返信も出来ないの一体何なんなんだ!……………おっとそういえば自己紹介がまだだったな、まあこんな小説を読んでものはよっぽどの物好きだなまあいい俺の名前は寺内 屍^{しな}偉^い縁起の悪い名前だ周りからは自己^じ中^{ちゆう}って呼ばれてるし

「ハア~~~~ツ」

ため息をついてたそのとき
ダッダッダッダッ!

誰かが階段を上がってくる音がして

バアアアン

ドアが勢いよく開いた

「に・い・ちゃ~~~~~~~~~~~~ん!!!!」

いきなり現れた子供が腹に抱きついた……

この子供の名前は寺内 桜^{しな}姫^い寺内家の三女である

「兄ちゃん、速くしないと遅れるぞ!」

そう言いながら抱きしめる力が強くなる

「ハイハイっわかったよ」

そう言つて桜姫の頭をなでながら時計をみる、時間は7時を回つた所
「よしっ、」

そう言つて階段を下りてリビングに行った、そこには朝食の準備が出来ていて台所には誰かがいた……………

「あつ兄さん速くしないと遅刻しますよ!」

こいつの名前は寺内 雪^{しな}寺内家の長女である

「おお、悪いな」

そう言つて椅子に座る

「いえ、別に構いませんよ……………でも最近変ですよ？いつもは私達より早く起きてるのにどうしたんですか？」

「ハハッ大丈夫だよ」

そう言つて誤魔化す正直どんなことで誤魔化せるかは分からないから適当に言つとく

そんな感じで話していると

ダツダツ
ダンッ
ダンバン

と五月蠅い音が聴こえてくる

「だあああああああああああああ、やつべええええええええええええええええ」

そう言いながら走って着替えながらパンを一枚とって食べる

「ふがふがふんがはがなが（何で早く起こしてくれねーんだよ！）」

「別にそれほど急ぐ時間じゃないでしょ」

まだ7時11分そんなに焦る時間ではない

「んぐつふう、今日は朝練するから早く出たかったの！ああやつべ、んじゃあ行ってきます！」

「あつちよ朝ごはんは？」

「い、いらないよ行つてきます」

そう言っ
て出てい
った

「んじゃ俺も行こつかな」

「あ、待ってください」

こうして1日の朝が始まる

ちなみにさつきしないまさきの奴は寺内真幸寺内家の次男だ

第2話 覚醒（前書き）

キャラクタープロフィール1

名前：寺内 屍

（しない しかばね）

性別：男

誕生日：3月1日

歳：18歳

血液型：AB型

身長：181？

体重：62？

普段は優しいが犯罪や暴力に家族が絡んでいると真っ先に助けられる悪ふざけが嫌いで陰で努力しているやや頭がキレる

第2話 覚醒

スタスタと歩道を歩く屍と桜姫と雪、桜姫はまだ小学三年生で俺は高校三年で雪は二年、ちなみに真幸は中学三年で剣道部主将だ、そんなこんなで桜姫を小学校にやってから俺たちは高校に行く親は共働きでフラツと帰ってきてはまたどこかへいく、そんなことがあたりまえになっていたまあクリスマスと正月は必ず帰って来るから別にいいがそんなことを考えていると校門が見えてきた俺たちが通う学校は千鈴ヶ丘せんりんがおか高校まあ至って普通そうに見えるがそうではない、何故ならこの学校一年毎に校舎が変わるつまり園内に学校が三つあり一年、二年、三年と別れている全国各地から大勢やって来るものだから教員も大変だろうなそんなことを思いながら校門をくぐる

「それでは兄さん、帰りに気をつけて下さいねくれぐれも怪我がないように！」

と人差し指を立てながらいう

「大丈夫だよ、子供じゃないんだから」

そう言っていこうとすると

「あつそれと私帰り部活で遅くなります！」

それだけ言々と自分の校舎がある所に向かって走っていった

「全く、心配性だな〜まあいいや」

そう思うと校舎の中に入り教室に入った、そして学校が終わるそのまま家に帰ろうとすると目の前に仮面をして黒いマントを羽織った人がいた

「君は……寺内 屍だね？」

突然そう聞いてきたので俺は

「はい、そうですけど？」

と、普通に対応したすると突然

「ならばここで死んでもらう、貴様の血は何色だ？」

そう言いながらどこから出したか分からない大きな鎌を取り出した

「……………！……！？」

訳がわからなかったいきなり現れて死ねって言われてすぐに逃げ出したかったでもそんなことを考える暇もなく俺は切られた……………

……………ん？

光に照らされ目覚めた所はなんの変わりのない教室だった

(……………？)

「ゆ……………め……………？」

俺はしばらく、と言ってもものの5、6分間ボーっとしてただけすると

「ねえねえ、屍君は文化祭の出し物何がいい？」

いきなり誰かがそう言ってきた俺はハッと気づき立ち上がり回りを見渡す

「！……………教室……………だよな？」

そう口ずさんで言った

「そうだよ！今更何いってんの？当たり前じゃん！」

前の奴が言ってきた

「お前は……………誰だ？」

本当に知らなかった回りの奴らも誰もこいつについては何も言わなかったソイツがそこにいるのが当たり前見たいにこっちを見始めた「ひつど……………い……！」

そう言っただけ目の前の女子は頬を膨らませている

「私の事を忘れるだなんて酷くない！？」

「……………あ……………う……………」何も言い返せない何しろ分からないの

だから相手が何者で何の関わりを持っていてのかが分からないのだ、そんな感じで困っていると先生が来た、しかも俺の知らない先生だ赴任してきたのか？、でもそんなことがあるなら集会をやるだろう

……………何故か頭が困惑してきた、頭が痛い吐き気もする……………

……………「何なんだこれは？」

そう呟く俺の知らないところで何かが変わりはじめている………た
だこれは始まりに過ぎなかった

第2話 覚醒（後書き）

キャラクタープロフィール2

名前：寺内 雪

（しない ゆき）

性別：女

誕生日：5月29日

歳：17歳

血液型：A型

身長：162?

体重：47?

B：91 W：52 H：83

心配性の長女真面目でしっかりしている家庭的で炊事や洗濯をして
くれるキレると怖い

第3話 真実（前書き）

キャラクタープロフィール3

名前：寺内 真幸

（しない まさき）

性別：男

誕生日：9月5日

歳：15歳

血液型：O型

身長：165?

体重：59?

慌てん坊でがんばり屋陰で努力することが多く皆からは暑苦しいと言われている寺内家次男

第3話 真実

キンコンカーンコン

「ハア、何だったんだ？」

そう言いながらスタスタと歩いて帰る……………すると、

「ん？」

目の前に仮面を付けて黒いマントをかぶった人がいた

（あれ？、何だこれ……………前にも一回あったような？……………）

そう思っていると

「お前は……………寺内 屍か？」

そう聞かれながら黒い煙みたいな物が出てきた

（ヤバイ、何か知らんけどここは逃げなくちゃヤバ、）

ズバンッ

そう思う間もなく相手は黒い煙を鎌状にして首を切った…

「貴様の血は……………何色だ？」

薄暗い中

「……………き……………て……………」

（ん？）

「お……………き……………てよ」

（誰だ？）

「起きなさい！？」

バシイイン

という音と同時に目が覚める頬には赤い紅葉の手後が出来た

「何も叩いて起こさなくてもいいのに……………」

文句を言うと

「中々起きないあんたが悪い！」

怒り口調で怒鳴られた言い返す暇もなくSHショートホームが終わる、と同時に

「今日は私の買い物に付き合ってくれる約束でしょ！、速く行くわよ！」

そう言つて教室を出ていった

「ハア〜〜、つたくめんどくさいな〜〜〜〜、ん？」

（そつえばあいつの名前何だっけ？ヤベツ忘れてたらまた怒るだらうな……ん、また？）

そんなことを考えながら教室を出たその瞬間

ピタッ

足が止まり、立ち止まる

「何だこれ？」

小言でいうと後ろから誰かが

「よう！」

笑いながら話しかけて来た……相手は俺の事を知っているから話しかけたのだろうか？、俺は

「お、おう！」

つと適当に言つたそうすると向こうは

「何だそれ〜、大丈夫か？あつそうそう俺は今日転校してきた白海しらかい

甲火こうかだよろしくな！」

「ええええええええええ！」

知り合いじゃなかったのかよ！そう言いたい位だった……

「それで、何？」

多少の驚きはあつたものの冷静を装つた

「いやあ〜最近切り裂き魔が出てきたって聞いたからって知ってるか、わりいな、んじやな」

そう言つて立ち去つたその時

グニヤ〜〜〜

「う、オエエ」

膝を付いて吐きそうになる目眩めまいもしてきた

(うう、何だ?)

すごいくらいの吐き気がしてきた目眩もする立とうとすれば上手く立てないその場で壁に寄つ掛かる、気が遠くなる……………ドサア、俺はそこで気を失った

「……………だ……………い……………じょうぶ……………?」

声が聞こえた誰だろう?優しい声だ……………

「起きなさい!」

バシイイン!

その音と同時に目が覚めた

ガバア

「?……………?……………生き…………………………てる?」

「何いつてんの?大丈夫?」

訳が分からず辺りをキョロキョロと見回す

「あれは…………………………夢?」

首を擦りながら呟く、何が何だかわからなかったとにかく学校の裏門から出て帰ろうと荷物を持って出ようとした

「な……………に帰ろうとしてんのよ、買い物は!」

部屋を出ようとした時目の前に人がいた

「うわっ、びっくりした!」

後ろにピョンと下がってしまった

「まあいいわ、それよりあんた突然倒れたのよ!大丈夫なの?そう言う訳だから買い物は明日にして一緒に帰ろう」

「あ、あれ?」

バツ振り向くと誰もいない……………

「?」

幻でも見たような情けない顔になるふと聞いてみた

「今日って……何日？」

「ハア？、12月20日だよ」

日は変わっていない後はタイミングだ………

「とはいえ結局死ぬんだよなあ」

「……………！」

振り返って帰ろうとした時

ドン、ドサア、ガッ

さっきの人が俺を倒して上に乗りナイフを突き付けた

「何故お前は未来を知っている」

「お前が俺を殺しているのか？」

聞いた、以外と冷静に聞いた

「ふん」

その人はその場から立ったそして話した

「我々はお前やお前の家族を捕らえ安全な所に送る事が任務だし
しお前の家族はそれを聞かず拒否した、だから強制的に連れてく
事にしたのだが……」

口を曇らせた言いたくないのだろうかしかし

「そんなことは初耳だが」

そんなこと言ったそしたら

「当たり前だ！」

と言り返された

「当たり前………ちょっとまってなんで当たり前なんだ？」

相手はため息まじりに

「……お前は……意味のない能力だからだ」

「能力……………？」

「そう、能力だ………… お前やお前の家族は特殊な血筋で最近分かったことでその血液が一滴でも混ざると中学一年まで願いを叶える事ができ、中学二、三年に発生する………… 我々はその能力のことを“ 願いの悪魔（NA）” と読んでいる何故ならその願いはどんなことでも叶い（かない）代償が無いからだ」
聞かされた、初めて知った
「その事は……………」

「お前の家族…………… 長女と次男だけが知っている」
真実を知ったその時
ブオン

「おい、完了だ」
背後から誰かがよつてきた振り向くと誰もいない……………
「全く腹減つてしゃあないわ」

「ハア、NA^{エヌエー}を使い過ぎるなよ疲れるだけだ」

「分かつてるよ、おつこいつか今回のターゲットは、ほれハンバーガー食べるか？」

そう言つてハンバーガーを差し出してくるそれを受け取ると俺は

「あんたの、…………… 能力は…………… なんだ？」

恐る恐る聞いた

「ああ、まっ一言で言えば光速で動く能力だ、ただ…………… ちょっと難点があつて使う度に腹が減るんだな」これが

説明をしながら黙々とハンバーガーをレジの袋から取り出してバクバクと食べているその時

ガシヤヤン！

窓ガラスが割れたそこには

「黒いマントに仮面！」

夢の俺を殺していた奴だ！

フオオオン、フオオオン

窓から風が入る

「寺内 屍はどいつだ？」

そう言っ て黒い鎌をだした！

第3話 真実（後書き）

キャラクタープロフィール4

名前：寺内 桜姫

（しない おうひ）

性別：女

誕生日：12月1日

歳：10歳

血液型：B型

身長：132？

体重：38？

ちっちゃいくせして以外と強い人見知りがなくどんな人にも笑顔を
振り撒く寺内家三女

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4742z/>

願いの願い

2011年12月21日22時48分発行